

Agri Culture

第45号(2014年1月1日)

有グハカルチャー



[発行元]

有田振興局地域振興部農業振興課

有田郡湯浅町湯浅 2355-1

TEL: 0737-64-1273

FAX: 0737-64-1274



新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素は、県行政とりわけ農業振興に格別のご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、国では、安倍政権のもと昨年流行語になった「アベノミクス」により景気回復に向けた政策が実施され、3本の矢の一つである成長戦略の中で農業施策も大きな舵取りが行われようとしています。

昨年5月、政府が「農林水産業・地域の活力創造本部」を立ち上げ、「農業・農村の所得を10年間で倍増させる」との目標を設定し、「輸出倍増戦略」や「6次産業化市場の拡大」、「農地集積による農業の構造改革の推進」を中心とした施策の検討がなされ、来年度から実施されるとともに、TPP交渉も進んでいる中、国際化の進展を含んだ大きな農業・農政の転換期にきていると言えます。



県といたしましても的確に国の情勢を踏まえながら、国の施策を活用するとともに、県独自の施策と併せて本県農業の振興に努め、当課におきましても、有田地域の課題解決に向け、生産者の皆様や関係機関の皆さんとともに、現場を第一として職員一丸となって取り組む所存でございますので、本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

有田振興局 地域振興部 農業振興課 課長 片山 泰弘
職員一同

2015 紀の国 わがやま 国体

第70回国民体育大会 躍動と歓喜、そして絆

平成27年 9月26日(土) ▶ 10月6日(日)

2015 紀の国 わがやま 大会

第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆

平成27年 10月24日(土) ▶ 10月26日(日)

農業団体の活動

■ 有田地方農業士協議会

生産技術の向上と農業経営の発展を目指し、有田地方農業士協議会(251名)は、4月に(株)農業総合研究所の及川智正代表取締役を招き『農家が儲ける仕組み作りについて』と題した講演を、7月に販路拡大・輸出等への取り組みについて県食品流通課担当者を迎えて研修会を開催するなど、活発に活動しています。

また、県農業士会活動にも積極的に参加し、8月には会員5名が、J A みっかび(静岡県)、ゴトアグリ(愛知県)への県外視察研修を行いました。



■ 有田地方4Hクラブ連絡協議会

有田地方4Hクラブ連絡協議会(会長:蜂谷泰史氏(湯浅町4Hクラブ)会員数:47名)では、経営や栽培管理技術の向上等、有田地域の若手農家の活性化に向けた活動に取り組んでいます。

本年度については、総会、研修会の他、お互いの知識や技術を競い合う技術交換大会、ソフトボール大会によるクラブ員交流、農村青年交流会、クラブ員が日頃の農業に対する研究成果や経営内容を発表する有田地方青年農業者会議(プロジェクト発表)等を開催し、資質向上と相互交流を図っています。



■ 農業士・4Hクラブ合同研修

農業経営の優良事例を学びながら会員相互の交流を図ろうと、有田地方農業士協議会と有田地方4Hクラブ連絡協議会は、9月に有田川町金屋地区内で、64名が参加し現地研修会を実施しました。

今回研修を行った優良事例は、温州ミカンSS(スピードスプレーヤ)防除園、ブドウとナシ等落葉果樹の複合経営、温州ミカンの園地改造、スプレーギク栽培ハウスの4事例。有田管内では数少ないSS防除園では、SS作業道を軽トラックも入れる道幅とすることで、防除作業に加え施肥・収穫作業の軽労化を実現していました。



■ 有田地方生活研究グループ連絡協議会

生活研究グループ連絡協議会(211名)では、郷土料理の伝承や地域農産物を使った加工品開発・料理提案など地域に根ざした食育・地産地消活動に取り組んでいます。

今年度は加工技術の向上を目指してリーダー研修会を実施する他、8月には「(株)石井食品」と「ファーマーズマーケットたわわ朝霧」(いずれも京都府)を見学し、原材料の履歴管理や検査体制を学びました。



農業教育支援・食育活動

今年度も、農業士や生活研究グループをはじめ地域の皆様の協力を得て農業体験や食育活動に取り組んでいます。

■ 【アイガモ農法による無農薬の米づくり】に挑戦(糸我小)

糸我地区青少年育成会(地元の農業士等)の協力のもと、米作りに取り組んでいます。種まきから田植え、稲刈り、お米の販売まで、5年生が中心となって実施しました。この米作りは、小学校で卵から孵化させたアイガモを飼育して水田に放し、無農薬によるアイガモ農法で行いました。



■ 【みかんの摘果・収穫体験(保田小、御霊小)】

1年を通じてみかんの木を観察。収穫したばかりのみかんの味は格別なようで、「甘い」、「おいしい」、「もっと食べたい」とあちこちから声。



「みかんの収穫(御霊小)」



「みかん果汁しぼり(保田小)」

■ 【手作り豆腐も大豆栽培から!(山田小)】

豆腐づくりをはじめ、地元特産の醤油と金山寺味噌づくりにも挑戦。材料となる大豆や湯浅なす、ウリなどは子ども達が学校農園で丹精こめて作ったものを使用。特に、醤油は2年がかりで作るため、味も喜びもひとしおのようです。



「昨年度の豆腐づくり」

■ 【和歌山特産の果実を知ろう、食べよう(全小・特別支援学校)】

県産果実に親んでもらおうと、みかん、柿、梅、桃を提供。各学校で総合学習や家庭科の教材として活用していただきました。調理実習では桃や柿を初めてむく子どもが多く、包丁の扱いに悪戦苦闘しながらも、旬の果物に舌鼓を打っていました。「家でも自分で皮をむいてみたい」とうれしい声も聞けました。



「柿を使った調理実習(田鶴小)」



■ 【郷土食体験～おいしく、たのしく食文化と農業を学ぶ～田村・田栖川・山田小合同】

地域の「食」と「農」を知ってもらおうと、郷土食体験を実施。児童達は、山椒のみれ汁やみかん寒天づくりに挑戦し、郷土の食文化に親しみました。

参加した児童達から、「包丁を使うのが難しかった」、「どの料理も初めて食べたけどおいしかった」、「みんなで一緒に調理できて楽しかった」といった声。黒米入りさつまいもご飯が特に好評で、何度もおかわりをする児童も見受けられました。

遊休農地対策の取り組み

山間地に点在する遊休農地の解消を目的に、農業振興課では関係機関と連携し、有田川町久野原地区において、地元直売所やJAからの要望が高い加工向けダイズやコンニャク、また栽培が省力的なサツマイモ等の試作を行いました。

各品目とも収量性や抑草対策、肥培管理などに課題はありますが、試作を通じて省力的で換金性の高い品目の検討をすすめ、遊休農地解消と地域活性化につなげていきたいと考えています。

	品目	品種	播種・定植 (月日)	収穫 (月日)	収量	
H24	ダイズ	つるのこ エンレイ	7/4	10/31	37.9kg/a 35.0kg/a	子実品質はエンレイの方が優れた
	コンニャク		5/24	—	—	
H25	サツマイモ	水軒金時	6/14	10/11	185.2kg/a 180g/個	一部食害が見られた
	コンニャク		継続2年目	10/11	271g/球	一部食害が見られた



ダイズ



サツマイモ



コンニャク

環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

9月に広川町井関の長谷光浩氏の温州ミカン園等で開催し、有田地域内外の農業者及び県関係者併せて43名が出席しました。園主の長谷氏から経営概要、ジャバラ栽培の取り組み、温州ミカンの特別栽培に準じた管理のポイント等について説明を受けた後、情報交換会では柑橘類の加工品への取り組みについて紹介いただきました。参加者からは、環境保全型農業に取り組むきっかけや加工品への取り組みについて質問があり、有意義な情報交換が行われました。



伝統野菜『湯浅なす』

湯浅町で古くから生産されている丸ナスで、果肉がしっかりといて崩れにくい等の特徴があり、主に金山寺味噌の材料として使われています。和歌山湯浅なす推進研究会が中心となり、平成23年度から青果出荷にも取り組んでおり、昨年度にはプレミアム和歌山に認定されています。農業振興課では、農業試験場と連携し栽培技術の向上を目的とした剪定・整枝研修会の開催や園地巡回により技術的なサポートを行っています。



事業の紹介

○果樹生産対策事業

①強い農業づくり交付金事業(産地競争力の強化)

果樹産地の生産供給体制を整備し、消費者ニーズに的確に対応した特色ある果樹産地を構築するため、果樹選果機や貯蔵施設等の整備を行う事業

平成24年度 有田川町のマル有共選組合において産地競争力の強化を目的に選果施設の整備を行いました。(平成25年8月30日竣工)

事業内容：非破壊糖酸センサー・カラーセンサーシステム一式
事業費：207,900,000円(補助率1/2以内)

②果樹産地再生緊急対策事業

和歌山県農業戦略アクションプログラムの目標を達成するため、果樹産地ごとの課題に取り組む事業

事業内容：優良品種への改植・土壌水分調整対策
小規模土地基盤整備・暴風対策等

事業費：1団体12,000千円以内(補助率1/2以内)



防風ネットの設置

鳥獣害対策

鳥獣の被害は適正な防護柵で防止できます!

有田地域の鳥獣被害はイノシシの被害が全体の53%、サルが17%、シカが21%を占めています。特に果樹の被害が全体の87%を占めていることから、果樹を中心に防護柵の設置を推進しています。

まずは、被害を及ぼす鳥獣種を確認して、効果的な防護柵を設置しましょう。

防護柵設置支援事業

- 簡易な防護柵の資材費補助(県事業)
 - 半恒久的かつ大規模な防護柵の資材補助(国庫事業)
- ※ 防護柵設置にあたっては、お近くの市役所・役場にご相談してください。

技術と対策

- 野生動物の生態や収穫時期を考えましょう。
- 専門技術に基づく適切な対策をしましょう。

- ・ 捕獲………被害を及ぼす鳥獣を捕獲しましょう。
- ・ 防護………被害を及ぼす鳥獣によって違います。
- ・ 環境………野生動物の出没しない集落環境にしましょう。

有田地域の防護柵の設置状況

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
17km	21km	188km	151km

防護柵のポイント

- 防護柵は、見回り、補修などの維持管理が大切です。
- 設置する場合は近隣の方とよく話し合ってください。
- 鳥獣種や作物にあった防護柵を設置しましょう。



イノシシ被害



シカ被害



防護柵

防護柵は設置した時点が鳥獣害対策のスタート地点です。

情報提供

品種紹介 (YN26、きゅうき)

■ YN26(極早生温州みかん)

県果樹試験場において、「ゆら早生」の珠心胚実生から「ゆら早生」よりも成熟期が早く、着色・樹勢ともに良い個体を選抜し、平成24年1月20日に品種登録されました。

- 特性・収穫適期:「ゆら早生」より減酸が早く、収穫時期も早い。
- ・糖度:「ゆら早生」と同程度で他の極早生温州ミカンよりやや高い。



YN26 9月下旬撮影(果樹試験場提供)

■ きゅうき(中生温州みかん)

有田市宮原町で「向山温州」の苗木に混入していた「1 樹変異」と思われ、県果樹試験場において、「枝変わり探索事業」により最も有望な系統と認められた品種で平成23年6月に品種登録出願が公表されています。

- 特性・「向山」に比べて浮皮果の発生が少ない。
- ・果実品質は「向山」とほぼ同等である。また、じょうのう膜は薄く食味が良い。
- ・中生としては隔年結果性が低く、豊産性と思われる。
- ※苗木(2年生)は、平成27年春から販売予定。



きゅうき(果樹試験場提供)

キク茎えそ病に
注意して下さい

平成25年6月に有田川町の施設栽培キクで感染が確認されました。

- 病徴及び病原ウイルスの性質 病原ウイルスはキク茎えそウイルス(CSNV)、発病株は茎にえそ症状、葉に退緑・えそ症状を生じる。



ミカンキイロアザミウマによって媒介されるが、経卵伝染はしない。罹病株からの挿し穂により伝染するが、種子伝染及び土壌伝染はしない。

- 感染植物 キクのほか、トマト、ピーマン、アスター、トルコギキョウなど
- 防除対策 発生ほ場では感染株を処分すると共に、罹病株を親株として使用せず、ウイルスに感染していない親株に更新する。媒介虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。

受賞者の紹介



■ 農林水産業賞【農業部門】 竹中一善氏(広川町)

竹中氏は、温州みかんを中心に中晩柑やハウスみかんの栽培に取り組み、労力分散と経営の安定化に努められる一方で、ありだ農業協同組合理事や広川町農業委員などに就任され、地域リーダーとして有田みかんのブランド化や農業者の経営発展に尽力されました。

また、広川町南広地区獣害防止組合長及び広川町鳥獣被害対策協議会会長として、防護柵や捕獲檻を設置するなど増大する獣害対策にも尽力されるなど、地域の農業振興に多大な貢献をされました。

お知らせ



「有田みかんデータベース」では、柑橘類の着花調査結果や温州みかん果実品質調査結果をはじめ、地域内の降雨状況など、みかんに関する色々な情報を発信していますので、ぜひご活用下さい。

URL : <http://www.mikan.gr.jp/> 携帯電話専用
Eメール : arida@mikan.gr.jp URL : <http://www.mikan.gr.jp/i/>

